

予防救急だより

冬号（第5号）
平成30年12月
発行：消防救急課
(51-3101)



毎年15,000件以上の現場へ出場する救急隊員の声！

- ◆普段からのちょっとした工夫で予防できることも…
- ◆ケガや熱中症などの傷病を正しく理解してもらいたい
- ◆救急事故が発生する原因を知って欲しい
- ◆今回の特集は……裏面にくわしくご紹介！

予防救急に対する意識が一層高まることを願っています！

《実際にあった救急事例を参考に対策を！》

【転倒防止】

事例：段差につまずき転倒、股関節を骨折

- ・室内の段差をなくす。
- ・手すりを設置する。
- ・部屋の整理・整頓をする。



【入浴時の事故防止】

事例：浴槽に顔が浸かった状態で発見

- ・入浴する時は家族に声掛けする。
- ・事前に浴室を温める。
- ・入浴中は家族が時々声を掛ける。



【窒息・誤嚥防止】

事例：食べ物（もち・ゼリーなど）がのどにつまった

- ・たくさんの量を口に入れない。
- ・ゆっくりよく噛んで食べる。



【火傷防止】 着衣着火

事例：調理中に衣服が燃えて大やけど

- ・火を使うときは袖や裾が広がっている服は避ける。
- ・火のついたコンロ越しの作業は行わない。



～冬号のトピックス～

あいさつが命を救う！？

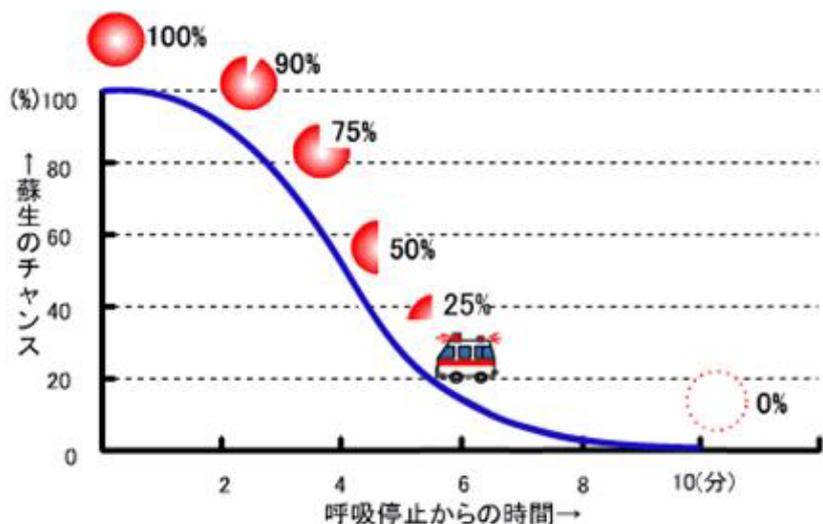


「あけましておめでとうございます。」新年のあいさつの代表格です。お正月のあいさつに限らず、日頃から交わすご近所の方とのあいさつは、命を救うことにもつながる重要なコミュニケーションツールです。



★救命率

右のグラフは、心肺停止状態になった人の生存率です。呼吸が停止してからすぐに処置を行う場合と、4分後に処置を行う場合を比較すると、生存率は約半分になります。1分1秒でも早く異常を発見し救急車を呼ぶことが、救命率の向上につながることがわかります。



★異常に早く気付く

あまり近所付き合いがない世帯、特に一人暮らしの方にもしものことがあると、発見が遅れて危険です。しかし、普段から交流があれば、「今日は顔を見ていない」などと早く異常に気付くことができます。

また、離れて暮らす家族とも、電話やメールでこまめに連絡をとることで、発見の遅れを防ぐ効果があります。



【救急隊コメント】

近所の人たちとあいさつをすることで、万が一の時にはいち早く異常に気付くことができ、1分1秒でも早い処置につながり救命率が向上します。

新年のあいさつをきっかけに、近所の人との交流を広げましょう。

